

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	19 年 7 月 17 日
事業所名	グループホーム まこと
ユニット名	
事業所番号	2372202065
記入者名	職名 ホーム長 氏名 山口 浩一
連絡先電話番号	0586-25-0380

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>地域行事への積極的な参加やお散歩時の気軽な挨拶を通じて顔を覚えていただき、こちらから出向くだけではなくお招きする機会も増やしていく必要がある。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員間で共有する機会は特に設けていない。	<p>スタッフルームや会議を主に行う多目的室にも掲示し、日々の取り組みや検討の場において常に理念を考えた上でのケアをする必要がある。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関に掲示し、御家族を含め来訪者への提示はしている。運営推進会議を通じて地域の方に説明を行い、家族には入居時に説明を行っている。しかし、地域の方に対しては町会長・民生委員の方のみであり、一般の方に説明を行う機会は少ない。</p>	<p>地域行事への参加や当ホームでの行事に参加していただく機会を通じて理解していただく。ご家族へホーム便りを作成し、配布していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>入居者と共に回覧板を渡しに行く・近所の飲食店を積極的に利用するなどしている。また、庭の花や野菜を持ち寄っていただいております、日常的な付き合いができつつある。</p>	<p>気軽に立ち寄っていただくための取り組みについては十分とは言えない為、今後検討が必要である。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>回覧版で得た情報を基に入居者と共に地域の行事に参加。地域の方と行う月に一度の「お宮掃除」には定期的に参加している。ホームに来て頂く良い機会になればと考えバザーを開催。その際、近隣の喫茶店や食堂に手作りのポスターを掲示させていただき地域の方への告知を行った。</p>	<p>老人会への参加がなされていない。当ホームに住所を移している方もおられるので老人会への参加も可能と思われる為、ご家族に相談し参加していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	運営推進会議の中で地域において災害等が発生し た場合に2階多目的室の提供など極力協力させて いただく事を話した。		避難場所としての話し合いは出来たが、その際の 食糧や水分の確保などの問題が解決されていな い。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は理解をし、職員に対しては管理 者より説明を行い自己評価を行うが、説明が不十 分だった為か空欄が目立った。		評価結果を受け、今後の具体的な改善や自己の向 上に努めたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	移転後、まだ間もないため現在の場所での開催回 数は少ないが、2か月に一度の運営推進会議を通 して様々な立場の方からの意見をいただけるよう 努めている。		委員の他、議題に応じてその分野の専門知識をお 持ちの方に参加を依頼している。また、地域の一 般の方にも参加を呼びかけ一般の方ならではの意 見をお聞きしたいと考えているが、現在に至るま で参加していただけていない。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	管理者・介護支援専門員により、主に市高年福祉 課に入居に関する事・介護保険に関する事に関し て連絡・相談を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	施設内研修は済んでいる。現在までにそれらを活 用できるような入居者様がいなかった。		今後、必要に応じて活用できる様、施設外研修に 参加しより深い知識を得る必要がある。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	会議にて管理者より職員に説明はされているが、 認識の甘い職員もいる。		法律については定期的に施設外研修で学び、全職 員にその必要がある。事業所内で虐待が見過ごさ れることのないよう「指摘し合える仲間づくり」 を徹底していきたい。外出・外泊後の心身の観察 においては、早期発見に努めるためにも継続して 行っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前には「お試し期間」を設けている。契約に関しては十分な説明を行わず、御家族に迷惑をかけてしまったことがある。</p>	<p>契約に至るまでスムーズに進むようマニュアルを作成し、活用してる。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御家族が面会に来られた際に入居者の近況報告・声を伝えている。また、電話等、連絡の制限は行っていない。</p>	<p>御家族・入居者の声に対しては会議の中で検討しているが、今後は、ささいなつづやきも大切に、そのシステムを検討していく必要がある。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月、ご家族・管理者との面会の時間を設け入居者の近況報告や会議での決定事項を伝えている。事前に個別の面接用紙を作成し、伝え忘れ・聞き忘れがないようにし、面接後、ご家族にコピーをお渡ししている。</p>	<p>面接後に生じた事態については、全御家族への周知が十分とは言えない為、徹底していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時に苦情に関する連絡窓口をお伝えし、面接を通じて意見等をいただいている。以前、アロマオイルによるむくみの改善ケアを行うことを御家族に伝えたが実施には至っていない。</p>	<p>御家族様にも満足していただけるよう意見・不満・苦情を受け止めて可能な限り改善につなげる必要がある為、苦情報告書の新規作成が必要である。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議で出された意見や提案に関しては、管理者から上司に報告し、検討している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>地域行事やレクリエーションにより職員の配置は可能な限りで変更・調整を行い、職員の協力・理解を得ながら御家族に周知している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職・異動がある際、ご家族へは毎月の面接を通じて事前に説明しているが、入居者へはダメージを考慮し、改まった挨拶は行わずいつも通りに生活していただいている。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については職員に回覧にて告知し、希望者や施設として必要だと感じた職員に声をかけ参加の意思を確認している。参加する事を事業所が認めた研修は「研修」とし、勤務の一環として参加している。後日、研修報告書にて報告する事を義務付けている。		今後は、自己の学びにとどまらず、事業所全体にその内容を伝え合うシステムを構築していきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣ホームとの交流に努め、施設行事への参加を互いに声を掛け合っている。		今後は近隣ホームとのネットワークを確立し、サービスの質の向上を図る取り組みが必要である。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に面接を行い、職員の直接の声を聞く機会を設けているが不十分である。移転後、職員の休憩所を設けているがあまり活用されていない。休憩所の横に喫煙室を設置し分煙に配慮している。		休憩時間としての時間は確保しているが休憩所に行き休む職員は少ない。業務内容・流れを確認し、休憩に入りやすい環境を作る必要がある。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	実績・資格等に応じた給与体制が確立されている。また、日頃の勤務状況の把握と職員との面接によって個々の努力も確認している。評価表に関しては現在作成中である。運営者が必要と判断する外部研修には積極的に参加している。		職員が「今の自分には何が足りないのか」を知るための自己評価も必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>御家族から本人に入居の事を伝えていない事も多い為、聞き取りが困難な場合もある。</p>	<p>お試し入居の期間に本人への聞き取りを行う事が多い。本人の希望・不安はケアプランに反映させるように努力している。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前にケアマネ及び管理者によって事前に御家族と共に面接を行っている。入居に関する相談後、ご家族・本人も含めて面接を行い、その際に十分に時間をとり対応しているが至らない点も多く実行されていない面もある。</p>	<p>希望に沿ったサービス提供ができるよう御家族の意見もケアプランに反映させ、実行できるように努力している。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時にはグループホームを希望されてくる事がほとんどであるが、再度、当ホームの説明を行いご家族・ご本人の気持ちを確認している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前にできる限りの情報を得て本入居となる前に「お試し入居」の期間を設けている。その間に当ホームでの生活が可能であるか検討してからの入居としている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>自立支援を目的として介護を行っているが、実際には過剰介護を行ってしまう事も多い。特に献立作成・調理・掃除・買い物等、検討改善しなければならない事は多くある。</p>	<p>日々業務の中でも指導し、職員の意識の改善を図れるようケア会議でも検討する必要がある。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を取り合い、利用者との関係が円滑にいくよう心がけている。精神的な部分での支えは特に御家族が重要であると考えている。		外出・外泊を積極的にお願ひし、本人との時間を多く過ごしていただけるよう協力していただいている。また、面接時・ケアプラン提示の際・面会に来られた際に近況報告をしているが、日頃の様子を定期的にお伝えできる様ホーム便りの作成を取り決めたが実行に至っていない。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時の情報やコミュニケーションの中から御家族との関係を知り、支援するように心がけている。御家族に本人との外出の機会を作っていただけるようお願いしている。		本人が家族に何を求めているのかに気づけるようコミュニケーションをとり、そこから得た情報を御家族に伝えられるようにしている。また、面会の際にはゆっくり本人とお話ができるように配慮し、必要に応じて職員が入るなどしている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所は完全には把握できていない。馴染みの場所 = 不穩・帰宅願望の原因となる為、御家族より制限されている場合もある。当ホームとしては通信・外出の制限はしていない。		出生が市外であり馴染みの場所が遠い方もいるが今後、可能な限りでこのような取り組みを行っていきたい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングだけではなく、談話できる場所を食道・玄関にも設置している。必要に応じ職員も会話に入り、良い関係が保てるように努めている。		食事の席・リビングのソファールにおいて決められた席はなく、その時々で自由であるが、気の合わない方同士が同じテーブルにならないよう注意をしている。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了の方は現在までで2名だが継続的な関わりを希望されれば大切にしていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>モニタリング時やコミュニケーションの際に本人の意向を聞き、サービス担当者会議やケア会議で検討をしている。</p>	<p>小さなつづやきも聞き逃さないようにしていかなければならない。困難な場合は今までの傾向を考慮し対応している。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の面接時に御家族・ご本人よりお聞きし、把握するよう努めている。</p>	<p>入居後は御家族との面会時や面接時に把握しきれない部分に関して都度お聞きしている。親族や知人からの情報も大切にしていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>アセスメントにて把握し、支援の方向を検討している。日々の状態に関しては介護記録・業務日誌などに記録しているが、総合的に要約するまでには至っていない。</p>	<p>職員の観察力の向上と共に、管理者・医療職・関係機関との連絡をとり、総合的に判断できるように努めている。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成については本人・家族の意見を尊重し、反映させると共にサービス担当者会議において検討し、作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>問題発生の都度、職員間またはケアマネ・管理者を含めて検討し、対応するよう努めているが、緊急性がある場合の介護計画については作成が追い付いていない。</p>	<p>主に病状が進んだ場合の判断が不十分である。主治医、家族との連絡を密にし、全職員で共有できるよう計画変更のタイミングをはずさない事を課題としたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録を取り次の勤務スタッフへと申し送りを行なっているが、共有の面からすると未だ不十分な面がある。</p>		<p>今年度に介護記録・業務日誌・体温表を見直し変更を行った。ニーズに沿った個別記録ができるよう能力を高めていきたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居時にホームとして可能なサービス・不可能なサービスについての説明を行っている。しかし、ご家族からの相談・急な状況においては臨機応変に対応するよう努めている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>長会長・民生委員に運営推進会議に参加していただき、必要に応じて消防の方にも参加の依頼をかけるなどしているが、現在では施設全体に関わることが中心の議題である。</p>		<p>今後は、入居者様の意向に沿った議題提起をしていき、より多くの地域参加をしていかなければならない。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>併用と言う事では現在までに必要性がなく行っていない。退居後のサービス利用に向けては情報提供している。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現在までに必要性がなく行っていない。</p>		<p>必要に応じて運営推進会議に参加していただき、情報交換・協力関係を築いていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を設けているが、本人・家族が希望される医療機関がある場合には主治医の変更を行わず継続していただいている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医との連携は行っていない。		認知症専門医の把握から行っていきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	准看護師の資格を持つ職員および看護師経験をもつ運営者に報告・相談をし、日常の健康管理に努めている。また、急変時に不在の際には連絡が取れ、指示を仰げるようになっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者に対する情報提供や相談に努めている。		健康や生活における情報提供書がない為、今後作成していきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の繰り返しの確認・話し合いの対応が迅速とは言えない。		重度化に伴う意思確認書を作成するなどして御家族・本人との話し合いの場を設け、それに伴った事業所としての対応し得るケアについて説明を行う必要がある。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療行為が常時必要になるとホームでの生活が難しくなってしまう事を入居時に御家族に説明し、理解を頂いている。また協力医療機関を依頼しており、定期往診・緊急時の対応をしていただけるように依頼している。事業所としての見極めについては教育が必要と感じる。		重度化・終末期を迎える前に御家族・医療機関と共に話し合いをする機会を設けていく必要がある。また、重度化や終末期における内外研修の必要性を強く感じる為、取り入れていき、最期を迎えていただく支援をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	現時点での本人の様子を詳細に報告し、本人のダメージと家族の戸惑いが最小限になるよう努めている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	十分には行えていない。特に排泄ケア時の声かけ・対応に関しては認識が甘い。		職員に対してのその都度の指導し、本人の立場に立って考えてもらえるようにしなければならない。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	外出希望の声かけ、外食時のメニューの選択、ホーム行事への参加の意思の「認めサイン」等、本人が納得して決定する機会をつくっている。		職員本位の計画ではなく、ホームの行事で「こんなこともやってみたい」という気持ちを計画に入れていく必要がある。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	希望に沿うようにはしているが、ホーム側に生活を合わせていただいている現状がある。		「待つゆとり」に取り組んでいきたい。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	本人の希望する店ではないが、理美容ができるよう努めている。希望に沿った毛染め・パーマもでき満足されていると思う。		今後は理美容の出張依頼ではなく、個々の希望に沿った店に行けるよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関しては職員が行ってしまうことが多いが、下膳・食器洗いはほぼご自分で行っていただいている。		献立なども一緒に考えつつ、入居者と一緒に能力に応じながら調理していかなければならない。出前においては、それぞれがメニューを確認して注文する事もある。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品に関しては特に制限はしていない。喫煙を日常的に好まれる方については、火災に注意しながら楽しめるよう支援している。おやつに関しては通常皆様同じものを提供しているが、好みに応じて別のものでお出しするなどして対応している。		お酒に関しては習慣的ではないが好まれる方がいるので、正月や外食等行事の際に楽しんでいただいている。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙パンツとパットの使用を布パンツとパットに変更するなどの試みは行っているが、個人の排泄方法・回数・量による分析・検討・実施は行われていない。		実施する際には本人・家族の意向の下で本人に負担がかからないように行いたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日・時間帯は職員の都合で決めてしまっているが、入浴の順番については公平となるよう配慮している。		一応の順番は決めてしまっているが状況に応じて変更し対応している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床に関しては朝食時間に間に合うようにしているが、睡眠・昼寝に関しては強制・制限していない。		生活リズムを考慮し、日常的に昼夜逆転されている方には極力家事やレクリエーションの参加を促すなどで活動の機会を増やしていただいている。入居前、長年遅い起床、朝食をされていた利用者にとっては生活習慣を配慮されているとは言えないので、今後の検討課題としていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の財布を持ち（おこづかい制度）買い物に出かけ自分の選んだものを自分で購入していただいている。農業をされていた方には積極的に畑へお誘いし、栽培方法などについて教えていただいている。		生活歴をより細かく知り、本人の生活の中で活かされるものをこれまで以上に見出していく必要がある。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「お小遣い制度」にて本人が財布を持ち自分で支払いおつりを受け取っていただいている。職員はおつりの確認のみ行っている。		出納帳への記入は職員が行っているが、今後、ご自分で出来る方には行っていただきたいと考えている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・花壇での花いじり・野菜の収穫など、主に見守り・付添にて支援しているが戸外に出かけるという点では、まだ不十分である。		ホーム外への外出希望はあまり聞かれない。職員としては買い物や散歩、喫茶店にお誘いして戸外へ出かけることを積極的に働きかけていく必要がある。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出レクを毎月計画すると共に、ご家族にも協力を依頼している。		外出レクリエーションは職員のみで考えるのではなく、一人一人が行きたい場所を把握し、参考にして計画実行していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙の制限はしていない。ファックスなども活用し御家族から本人宛に送られたものをご本人にお渡ししている。		電話をかけることが困難な方には職員がかけ、本人に取り次いでいる。頻繁になると御家族の負担も大きい為、ご家族と確認し回数・曜日等を決めている方もいる。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	他者を気にすることなく家族等が来ても談話できるスペースがそれぞれの居室にある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立ち上がりを阻止するような椅子のセッティングをする職員もあり、いまだ完全に理解しているとはいえない。		紙面ではなかなか理解できない様である為、具体例を挙げながらの研修が必要である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所より「施錠は禁止されている」という認識はあるが、それによる弊害までは認識していないと思われる。居室ドアは本人の意思で本人によって施錠されることはある。		鍵かけについては以前に行った職員がいたため、会議で話し合われたが、まだ認識の甘い職員もいるため今後、会議等で繰り返し話し合っていく必要がある。施錠の弊害についても統一して認識しなければならない。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1フロアで見通しが良いため、安全に暮らしていただけるよう努めている。しかし、センサーはトイレと玄関のみである為、十分とは言えない。		夜間に関しては1時間毎の巡視を行っているが、窓からの離居の可能性については否定できない。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ・裁縫道具等を自己管理されている方もいるが、利用者間での受け渡しもあり、だれが何を持っているのか完全には把握していない。		定期的に本人と居室担当者と共に居室の整理を行い把握に努めたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告等で都度検討し改善につなげているが、事故を予見する知識は少ない。		施設内の研修にて職員の知識を増やしていくとともに各種マニュアルの作成も必要である。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	行えていない。		早急に消防の方に依頼し、講習会を繰り返し行うとともにマニュアルを作成していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議の中で消防・地域の方に意見をいただけた事で防災・避難については今後の参考になったが、近隣の方々も高齢化が進んでいるとの事で積極的な協力は難しそうである。		今後も定期的に働きかけ、施設としても協力できる部分を提示していきたい。また、施設自身としては定期的に防災訓練が実行できるように計画しなければならない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	管理者より入居時やその都度、生活している上での起こり得る事故については説明を行い、ご理解いただいていると思う。		職員の中には認識・理解の甘い者もいるので、今後施設内研修などで理解を深める必要がある。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	介護記録や業務日誌を通じて情報は共有し、対応を心掛けている。本人からの訴えにも気を配りながら対応しているが、その後の対応・経過観察に問題がある。		体調の変化や異変については記録や申し送りがされているが、その後の経過については途切れてしまう傾向にある。経過観察の重要性を知り、各職員が認識することで継続した観察を行っていく必要がある。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人で専用のファイルに保管されている個人の処方箋を確認する事は出来るが、理解には至っていない。		介護職員が理解できるよう、追記する必要がある。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	十分な水分補給・牛乳・ヨーグルトの飲用、運動を促すための声かけを行っている。		当ホームの独自の取り組みとして、アロマによる便秘対応をしていく予定である。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は行っていないが就寝前・起床後に声かけにて行っている。自立されている方が多いため、どの程度きれいになっているか把握しづらい。		毎食後の口腔ケアを定着したい。個人の能力を把握し、できない部分を支援していきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつも含めて食事・水分の摂取量を記録している。気候や外出・入浴等に応じて多めに水分を促すこともある。		健康状態や医師の指示がある場合については、都度学んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	日常的には手洗い・うがいを促している。インフルエンザの予防接種は毎年行ってもらっている。職員は日常的にアルコール消毒に依存しており、知識に欠ける。感染症マニュアルは作成されていない。		マニュアルを作成し、正しい知識と実践が必要である。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に食器をハイター消毒している。食材は常時腐りや期限切れがないか確認し、冷蔵庫内の掃除も定期的に行っている。		マニュアルを作成し、正しい知識と実践が必要である。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まではスロープを設置し、安全に出入りできるようにしている。玄関は夜間以外は常時開錠しており、リビングから玄関が見える事で来客者にも気付きやすくなっている。		玄関先が雑然としており整理がなされていない。プランターで花を育てる・ベンチを設置するなどして共有の場として活用できるように工夫する必要がある。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と共に作った作品の掲示や観葉植物があり、テーブルには花が生けていることが多い。居室電気の使用方法（タッチ式）が理解できない方については昔から使われているような紐タイプの物に変更した。		改善しなければならない個所は多々あるので季節感を大切にしながら行っていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファーにも席を決めていないので空いているところで好きな方との会話を楽しんでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具を含め本人馴染みの物の持ち込みは自由であるが持ってこられている方は少ない。備え付けのタンスの位置も個人で決め、しまう場所・方法も自分で決めてもらっている。		皆変わり映えのない居室になっているため、室内の装飾や模様替えをするなどしてその人らしい居室を作っていただくよう支援していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外に面するドアや窓には網戸があるので換気は頻繁に行っている。冷暖房は各居室とリビングに設置され希望に沿って使用している。湿度計が設置されているが、活用されていない。		臭気対策についてはご自分で汚染パットを新聞紙でくるんでいただいているが消臭効果は少ない。トイレに設置されている汚物入れに蓋をする必要がある。湿度計をチェックし、快適に過ごしていただくよう気配りをしていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーと手すりにより安全に歩行ができる。トイレ・浴室も広く車いすの方でも対応できる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	どこまで理解されているのかの把握に努め支援においても工夫により声かけのみで可能か一部介助が必要であるか判断し行うようにしている。		自立を妨げることがないように見守る介護を増やしていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	家庭菜園にて花・野菜を育てている。天気がよく涼しい時期には外にテーブルを出し食事をしている。駐車スペースが多く、庭と言えるスペースが少ないため、職員の付き添いが必要となってしまう。		限られたスペースを有効活用できるよう工夫していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)